学生考案のレシピがメニュー化
産学連携で高槻の米粉を広める

今年5月に高槻市の米粉ブランド「清水っ粉」を使ったレシピを梅花女子大学管理栄養学科の学生が考案、それを基にした4つのメニューが12月9日～14日の5日間で市内飲食店にて提供されることとなった。

「清水っ粉」はパンや焼き菓子、天ぷらなど幅広い料理に多用可能なアレンジしやすい米粉。高槻市北部の清水地域でベーカリーを営みながら、米栽培も行う髙谷直樹さん（(株)髙谷 代表取締役）が10年前から開発に着手し、そのまま炊き上げても美味しい地元玄米を独自の技術で製粉した商品だ。本取り組みは（株）髙谷とその事業を支援する高槻商工会議所、そして成分分析などの専門機関として協力を依頼された梅花女子大学との産学連携によるもの。

5月に行われた品評会の様子

髙谷さんは「後継者不足等が原因で、地元の水田が遊休農地や建物に姿を変えていく現状を目の当たりにしてきました。“これ以上は水田が減少してほしくない”と思うようになり、そのために何かできることはないかと考えて出た答えが、地元産米を仕入れて米粉にし、販売することだったんです」と今後の普及にかける意気込みを語った。

【 提供予定メニュー 】
❶カフェJause
『米粉の和風ロールケーキ』
❷菓子工房Hikino
『「高槻産」米粉のシュークリーム』
❸四季馳走 あか馬
『高槻清水っ粉水餃子』
❹イタリア料理Pioggia
『カボチャの米粉ニョッキ』

CULTURE コラム ― VOL.4

梅花から「令和」を込めて
「日本語を漢字だけで書いてみると…」

奈良時代の日本語は、固有の文字を持ちません。書き留めることが求められると、漢字だけを使って記す文化が育まれました。いわゆる万葉仮名（まんようがな）が、その代表です。『万葉集』巻七には「摂津にして作る」と題した中に、次のような歌が記されています。

命幸久吉石流垂水々乎結飲都
――四二番歌

五七五七七で読むことを考えると、どこで区切ったらよいものか…。初句を「命」だけで捉えてみると、「いのち」に二文字を読み添えます。「命幸」と二文字で読んでみると、「いのちさきく」と字余りになります。うまく読み通すことのできない歌を、私たちは難訓歌（なんくんか）と呼んでいます。幾通りかの読み方が試されていますが、仮に「命をし幸（さき）く（久）吉（よ）けむと石流（いはばしる）垂水（たるみ）の水を結びて飲みつ（都）」と読んでみましょう。「（私の）命が無事で良い状態にありますようにと（祈りながら）、岩の上を勢いよく流れ落ちる滝の水を、（手で）寄せ合わせて（すくって）飲みました」と訳すことができそうです。作者は旅の道中なのでしょうか。自らの命が健やかであることを、激しく流れ落ちる滝の水を飲んで、祈願したことを歌にしています。

「垂水」は滝の普通名詞ですが、地理的な特徴は地名にもなります。吹田市には垂水町を探すことができます。垂水神社には、『万葉集』から志貴皇子（しきのみこ）の歌（巻八・一四一八番歌）が、碑として建立されています。また、神戸市には垂水区を見つけられます。平磯緑地には何首もの万葉歌碑が建立されいて、一一四二番歌も読むことができます。

作者はどこの滝の水を飲んで、命をつなぐことを願う歌を詠んだのでしょう。

梅花女子大学教授 市瀬 雅之
現代訳から原文までを用いて『万葉集』に文学を楽しむほか、『古事記』や『日本書紀』等に日本神話や説話、古代史をわかりやすく読み解く。中京大学大学院修了 博士（文学）。著書に『大伴家持論　文学と氏族伝統一』おうふう 1997年、『万葉集編纂論』おうふう 2007年、『北大阪に眠る古代天皇と貴族たち 記紀万葉の歴史と文学』梅花学園生涯学習センター公開講座ブックレット　2010年。ほか執筆・講演・講座多数

俳句 HAIKU ― VOL.4

10月25日締切りでご投句いただいた中から、山口昭男先生に入選作品を選んでいただきました。

【 優秀賞 】

口笛を吹けばコスモス揺れにけり　明石市　角谷　徳美
不思議な句です。口笛を吹いたことでコスモスが反応して揺れたということです。実際は偶然のことなのでしょうが、俳句で表せば口笛の音色に誘われてコスモスの花が揺れはじめたということになります。素敵です。

【 入選 】

点滴を終えて粥出るクリスマス　西宮市　岡田　昭弘
クリスマスの季語でクリスマスの雰囲気を詠っていないのがよいです。

わっと来てわっと逃げ去る稲雀　神埼郡　西　敬介
稲雀の動きを的確に描きました。俳句のひとつの基本です。

秋のけはい感じて猫が現れる　西宮市　仮野　理恵
猫も秋が来たのがわかるのです。猫の動きで秋を感じるのもまた一興です。

雲流るトンボ自由を知りつくし　芦屋市　石井　直子
蜻蛉が自由に飛んでいます。この自由さに作者は憧れているのです。

水の音の聴き入りたるは紅葉かな　京都市　野咲　蓮華
巧みな句です。水の音も聞いている人物もすべて紅葉になっていくようです。

【 佳作 】

知る人ぞ知る一郭の帰り花　豊中市　安藤　知明
学ランの鉢巻跳ねて秋高し　茨木市　山下美穂子
奥飛騨の天高ければ谷深し　長岡京市　藤堂　邦雄
蜻蛉群れ酒蔵壁に影うつし　西宮市　柴原　祐子
早朝の駆け抜ける道秋の風　吹田市　前川　裕行

【 つぶやき評 】
俳句で詠んだことがあたかも本当のことのように読み手に伝わることがあります。この詩的真実を探ってゆくこともまた俳句の魅力です。俳句には様々な顔があります。だから俳句は面白いのです。

選者
山口 昭男
（やまぐち あきお）
1955年 神戸市生まれ。1980年「青」に入会。波多野爽波に師事。2000年「ゆう」入会。田中裕明に師事。編集担当。2010年俳誌「秋草」を創刊し主宰する。毎月発行。句集に『書信』『讀本』『木簡』がある。2018年句集『木簡』で読売文学賞受賞。日本文藝家協会会員。

【 俳句の応募方法 】
氏名・住所・年齢・明記のうえ、ハガキ、封書、FAX、下記の応募フォームのいずれかからご応募ください。

［ 宛先 ］
〒566-0001 大阪府摂津市千里丘1-13-23
株式会社シティライフNEW　俳句係まで
FAX 06-6368-3505

［ 応募フォーム ］
https://pro.form-mailer.jp/fms/f413b102177160

※締め切りは毎月25日必着　※いずれも一人5句まで
※掲載は次々号となります
※佳作は掲載をもって発表とさせていただきます。
※お名前と作品を掲載します。

飲酒運転による交通事故をなくそう
協力:大阪府警察

2019年9月末時点の大阪府下の飲酒運転による交通事故発生件数は129件（2018年9月末時点では119件）、そのうち死亡事故件数は9件（2018年9月末時点では2件）となっており、どちらも昨年を上回る件数となっている。（件数はすべて確定値）

酒気を帯びた状態で車を運転すると「発見の遅れ」「反応の遅れ」「運転操作の遅れ」などの影響が出て、安全に車を運転することが不可能となることなどから、絶対にしてはいけない。

また、飲酒運転を行うだけでなく、飲酒運転をするおそれのある人に車を貸したり、お酒を提供する行為や、運転者がお酒を飲んだ状態であることを知りながら同乗するといった「飲酒運転を助長する行為」にも厳しい罰則が設けられている。

年末年始にかけてお酒を飲む機会が増える時期となる。一人一人が飲酒運転をなくそうという意識を高め、「お酒を飲んだら運転しない、させない」を実践することが大切で、運転代行の利用や、ハンドルキーパーの指定も有効だ。

［ 飲酒運転の罰則 ］
酒酔いの場合
…5年以下の懲役又は100万円以下の罰金
酒気帯びの場合
…3年以下の懲役又は50万円以下の罰金
［ 飲酒運転者以外の罰則 ］
●車両提供
運転者が酒酔いの場合
…5年以下の懲役又は100万円以下の罰金
運転者が酒気帯びの場合
…3年以下の懲役又は50万円以下の罰金
●酒類提供又は車両同乗
運転者が酒酔いの場合
…3年以下の懲役又は50万円以下の罰金
運転者が酒気帯びの場合
…2年以下の懲役又は30万円以下の罰金